

令和7年度 第1回魚沼市子ども・子育て会議 会議録

1. 日時	令和7年5月30日（金） 13:30～15:15					
2. 会場	魚沼市役所（本庁舎） 3階 301会議室					
3. 出席者 （敬称略）	魚沼市子ども・子育て会議委員					
	役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠
	会 長	菫澤 毅夫	○	委 員	富永 恵	○
	副会長	目黒 和男	○	〃	椿 広美	○
	委 員	松永 優	○	〃	櫻井 弘美	○
	〃	山之内 真	欠(委任状)	〃	星 敏夫	○
	〃	佐藤 達也	欠(委任状)	〃	田中 秀	○
	〃	山本 都子	○	〃	茂野 悦子	○
	〃	清水 明次	○	〃	横山 京子	欠(委任状)
	〃	貝瀬 英昭	欠	〃	熊谷 美峰	○
	〃	羽鳥 敦子	○	〃	梅井 雅行	欠(委任状)
	事 務 局（魚沼市教育委員会事務局）					
	・教 育 長：樋口 健一 ・事 務 局 長：大塚 宜男 ・子ども課長：浅井 勝美 ・子育て支援センター長：星 真人 ・母 子 保 健 係 長：上重 綾子 ・保育園幼稚園係長：大島 誠 ・児 童 福 祉 係 長：馬場 道子 ・児 童 福 祉 係 主 任：酒井 潤					
4. 資料	・会議次第 ・私立保育園の利用定員の変更について（報告） 資料No. 1 ・「魚沼市こども計画（仮称）」の策定に向けて 資料No. 2 ・こども計画策定に係るアンケート（案） 資料No. 3-1、No. 3-2、No. 3-3、No. 3-4 ・こども計画策定までのスケジュール（案） 資料No. 4					
5. 会議概要	（説明、質疑、意見、答弁内容等の要旨をまとめました。）					
事務局	1 開 会 これより、令和7年度第1回魚沼市子ども・子育て会議を開会いたします。 定足数の報告 委員定数18名のところ、出席委員13名、委任状4名、計17名。半数以上のとなることから会議が成立しました。					
教育長	2 教育長あいさつ 皆様、本日は大変お忙しいところ第1回子ども・子育て会議にご参加いただきありがとうございます。日頃よりそれぞれの現場におきまして子どもたちの健やかな成長のためにご尽力いただきまして感謝申し上げます。					

事務局	始めに少しご紹介させていただきますが、市では一昨年から幼児教育と小学校教育をスムーズに繋げようということで架け橋プログラムに取り組んでいます。幼児教育で育てていただいた意欲や友達と関わる力といった非認知能力を、うまく小学校教育の強化学習に接続していきたいと願い、具体的なカリキュラムを作りました。幼児教育サイドと学校教育サイドと両方で連携をとりながら検討を重ねて、今、実践を一生懸命しているところです。担当指導主事が4月に各小学校の1年生の様子を全部見てまわっています。少しずつ成果も出てきており、子どもたちの様子も穏やかに学校生活に馴染んできているのではないかと報告を受けています。今後も学ぶことが楽しいと感じてくれる子どもたちの育成に向けて取り組んでいきますので、皆様方からもご協力をいただきながら進めたいと思います。また、お気づきの点等ございましたら教えていただきたいと思います。よろしくお願いします。 本会議ですが、魚沼市における子育て支援事業等について委員の皆様からそれぞれのお立場で事業評価やご意見をいただきながらその声を計画に反映し市民の皆様から求められる事業にしていくための検討会議だと考えています。 子ども子育ての支援事業につきましては、国や県から大きな枠組みが示されておりますが、魚沼市では子育て日本一のまちを目指して、大変力を入れて取り組んでいる分野であります。皆さまの手に「ひとづくり・子育てのまち 日本一を目指す魚沼市」のチラシが届いているかと思いますが、市民の皆さまに全戸配布しております。今年度からは保育料完全無償化、保育園の給食費も無償化にしております。そのようなことをはじめ、様々な子育て支援の取り組みを一枚の紙にまとめてPRしているところであります。 国の方は、こども家庭庁を設置した後で、こども基本法が施行されました。これに基づきまして、こども大綱が策定され、都道府県と市町村にはこども計画を策定する努力義務が課せられています。このような流れを受けて令和7年3月に新潟県が新潟県こども計画を策定しました。さらにこれを受けて、魚沼市でも、県を参考に市としてのこども計画を策定したいと考えているところです。他にも自治体として策定しなければならない計画がありますので、これらと一体的に、本子ども・子育て会議におきまして皆さまからご検討いただきながら、策定を進めていきたいと思っております。今年はその策定に向けての検討もこの会議の大事な役割になってくるかと思えます。どうぞそのことをご理解いただきながらご検討いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。 3 委任状の交付 4 自己紹介 5 会長及び副会長の選出 事務局案が承認され、会長に菰澤委員、副会長に目黒委員が選出される。
-----	--

議長	6 報 告 (1) 私立保育園の利用定員の変更について、事務局お願いします。
事務局	資料No. 1 について説明 (質疑)
委員	今回の増員に関しては、園からこれで上げると申し出があったのか、それとも利用定員が20%超過で2年間超過すると上にあげなければならないとなっているのですが、そういうことなのか、お答えいただけるならお答えください。
事務局	今年の3月に利用定員の変更に係る意向調査を実施し、意向調査に基づき私立園の皆さまに変更を確認したところ、第2たんぼ保育園の方から変更の申し込みがあり、それに基づいて変更したものであります。
議長	7 議 事 (1) 魚沼市こども計画（仮称）の策定に向けて、事務局お願いします。
事務局	資料No. 2 に基づき説明 (質疑)
委員	資料No. 2 の1ページ中段の子どもや若者を取り巻く問題についての現状認識について、国はこの現状認識に基づいてこども大綱をまとめることになったのだと思います。魚沼市でも同じ問題が起こっているという意識が共有されているのでしょうか。つまり、国で問題であっても魚沼市では問題となっていない事柄もありえると考えているので、国と市の現状認識にずれがあるのに国が言っているからといって計画を進めていくと、計画にもずれが出てくる可能性があるのでは、その確認です。
事務局	子どもを取り巻く問題は国と全く同じというわけではありませんが、市内でも発生している問題であります。全国的な問題でもあり、こども大綱や新潟県こども計画に沿って策定を進めていきたいと考えております。
事務局	市町村こども計画は地域に根差したものになるので、今後のアンケート調査等を通じて地域に必要なものを確認した中で策定を進めていきたいと思っております。
委員	資料には行政の言葉がたくさん並んでいて魚沼市でも計画を策定するとなったときに、市内の色々な計画の関連性やその系統性が分かるような図を次回に示していただくと皆さんがイメージしやすいと思います。

委員	改めて確認ですが、魚沼市では4月から始まった子ども・子育て支援事業計画の他に、こども計画を策定して令和11年度までは2本立てで進めるという認識でよろしいですね。それであれば、この会議では「子ども・若者計画」「子どもの貧困対策推進に関する計画」に関する事柄に係る部分についても審議することになるのでしょうか。また、その内容が全て一緒にアンケートの中に入れられ、進めるということでしょうか。
事務局	そうなります。
事務局	こども計画については「子ども・若者計画」が一体的に策定されますので、対象となる「こども、若者」の定義が0歳から39歳までとなります。
委員	そうすると、元々、子ども・子育て会議の委員の多くは、これまでの「こども」に対する子育て支援を考えるために集まったメンバーであり、今年度もそれに準じていると思うのですが、39歳までの範囲までカバーして、利害や現状認識といったものを考えられるメンバーになっているのでしょうか。
事務局	その点を考慮しまして、今年度から商工会等のメンバーの増員をさせていただきました。また、計画の中には、これまでと同様に「こども」に対する子育て支援を検討する機会が多くなることも想定されることから、このメンバーで対応できると考えています。
委員	そもそも魚沼市こども計画というのは、どんな計画なのかというのがよくわからないのですが、子どもの貧困対策に関する市町村計画という認識でよろしいでしょうか。
事務局	貧困対策に関する部分もこども計画の一部となるということでご理解いただきたいと思います。子育て施策に関する計画に加えて、「子ども・若者計画」も加え、貧困問題やこどもの人権を守ることも計画に取り込んでいき、こどもに関する施策が一つにまとまったものと考えていただければと思います。
委員	一人の人間が生まれてから亡くなるまで、どこかで区切らないといけないと思いますが、この会議の18人が、色々な問題の中でどういうことなのか、もう少ししっかりと、人間の育ち、人間の一生の中で大きくとらえるべきだと思っています。 それで私は80歳です。年をとっていてもそれなりに、基本的には全部経験してきました。子も4人も生んだし、孫もいますし、今は自分のひ孫みたいな子どもたちと付き合っています。その中で今回、おやっと思ったのが、子ども・子育て会議の委員名簿です。これに私は非常に興味がありました。それは、最初から（5号委員）公募委員のところに名前が入っており、公募委員の意識の高さが出てきたかなと感じました。子ど

	も・子育て会議に市が依頼したような社協の方だとかコミュニティの方だとかP T Aの方だとか、元々何々の方がいる中で、本当にどなたかが子どものことをきちんと考えて公募されたのだろうなと思いました。頼まれたのではなく、自分の意識と自分の表現力で入っていらっしやったのかなと。非常に会議に参加しておやっと思ったのが1点です。 そういう意味において、もう少し人選を変えるとか変えないとか、年齢でどうだとかこうだとかではなくて、本当にもう一度、子ども・子育て会議の委員の名簿を考えるべきなのかなと思っています。ただ、どこでどうするのかは、大きな人の一生の中でとらえるべきだと思っていますので、一番重要なことは、その人が本当に魚沼市の子どもたちをそういうように育て日本人の一員として育つのかと、そしてまた魚沼市の地域の子どもたちの特色で、子どもたちが、やっぱり魚沼市の子どもがこの環境の中で生まれて、教育と保育と生まれて亡くなるまでということをしっかと考えるべきだと思っています。したがって基本的にどうしても良いことをやっていたって仕方ないなと思います。けれども国がどうだ県がどうだ、いや市がどうだということで、私たちが一番大事なことは、自分の言いたいことをきちんと言える、そういう子ども達を育てることだと思っています。そういう意味で子ども・子育て会議のメンバーもどこかでよく考える必要があるのかと思います。
事務局	貴重なご意見ありがとうございます。今後の委員選考の参考とさせていただきます。
委員	審議に入る前に、このような大きな問題について考えること、提案をして意思統一していく方向性はとても大事だと思います。さあスタートだともう具体的なものに入っていけないとダメだというものではなくて、大枠を、全体像をみんなで共有し、その後に個別具体的な問題をしっかり話し合っていくというスタイルは、このような審議会や会議において大事だと思いますので、市の方からも汲んでいただいて、クリアできるところはクリアしていただきたいと思います。 先ほどから0歳から40歳未満までを大きなアングル・対象として考えるときに、昨年度までの子ども・子育て会議のメンバーで十分対応できるのかという指摘は、もっともだと思います。しかし、これから人選をやり直すということが難しければ、それぞれの委員の工夫できることもあると思います。例えば、私であれば主任児童委員として0歳から18歳を主たる範囲としておりますが、民生委員児童委員協議会は0歳から亡くなるまですべての方を対象としておりますので、私が例えば部内で民児協の会長さんに大枠について意見を求めて聞いてくれば、個人的な見解だけでなく、それぞれの団体組織に属する方が十分広い年齢層にできるだけアングルを向け、アンテナを張って情報収集し、それをこの会議で反映するというのも十分できることではないかなと思います。 それから非常に色々な法律や計画があつて、その間の関係性や繋がり性がなかなか見えてこないですね。行政の方は行政文書に慣れていらっしやるかと思っていますので、よく理解していると思いますが、理解が難しいところもありますので、たとえば、「子ど

	も・若者計画」であれ、「子どもの貧困対策の推進に関する市町村計画」であれ、一つ一つの大枠というか骨子、背景やそこで指摘されている重要なことをフレーズの的にピックアップしていただいて、これとこれはここで繋がるね、こことこの考えはここで繋がるねということを図式化していただければ、私たちも感覚的にアプローチやイメージができて話し合いが深まると思いますので、大変なところかと思いますが、その辺も考慮していただけると多くの委員からすっきりした感が出てくるのではないかと思います。
事務局	ありがとうございます。説明が足りないことがたくさんあり申し訳ございませんでした。次回の会議には、わかりやすくまとめた資料を提示したいと思います。宜しくお願いします。
議長	(2) 魚沼市こども計画策定に向けたアンケート調査について、事務局お願いします。
事務局	資料No.2の4ページ及び資料No.3について説明。 (質疑)
議長	只今の説明について、質問やご意見はございますか。
委員	先ほど委員から日本の状況・課題について魚沼市でも共有していますかという質問が出されたかと思いますが、このアンケートを作るにあたって、魚沼市ではどこを一番の課題として作られたのでしょうか。
事務局	今回のアンケートについては、国県や他自治体のアンケートを参考に作成しておりますが、アンケート対象者の生活状況や困りごとなどを把握できればと思っております。
委員	第三期子ども・子育て支援事業計画を立てるにあたって、すごいアンケートを実施しています。そして、計画の4分の1ほどで子どもたちや市民からいただいたアンケート結果と分析をととても丁寧にされています。それが丁寧だからこその確な計画ができると思います。そういう意味で国や県のこども若者を取り巻く状況や経済状況や地域の状況は、厳しい面はかなり一致しているけども、つぶさに見れば、それでも魚沼市は地域間の助け合いがまだまだ残っているところですよ。いわゆる共助と言いますか、お互いに助け合う、近所同士で助け合う、同級生同士で助け合うと、そういった良さもやっぱり、大事な良さとして魚沼市にはまだ内包しておりますので、マイナスの部分だけでなくプラスの部分にも光を当てて、このプラスの部分がどのようにしていったら大きく膨らんでいくだろうかという議論を丁寧に行いながら計画の中に入れていくと良いのかなと思いました。 先日の主任児童委員会の際に事務局から第三期子ども・子育て支援事業計画の骨子を説明していただいて、丁寧な実態調査と分析をしていると感じることがございました。

事務局	今回の調査も前回は考えると何%くらいの集約が可能なのかということと、前回の支援計画を立てる際に小中学校や保育園はカバーできるけども、色々な意見を持ち始めている高校生、16歳から18歳の高校生の意見がね、この地域を作っていく今後の力になるであろう高校生の意識調査、そういうところも必要だと感じています。 昨年度、第三期子ども・子育て支援事業計画を策定する際には、この委員の何人かが、学校は働き方改革で忙しいと思いますが、生徒会とか学校の協力を得ながら高校に出向いて行って、生徒と直接対話をして意見を聞けるといいねという話も出ていました。前回は実現しませんでしたけども、今回はアンケート調査でそれが可能になってくれば課題が解決できるのかなと思いますので、重要な16歳から18歳くらいまでの高校生への実態調査というか意識調査をどのようにして工夫できるのかなということと、若者1,000人へのアンケートというのは、何歳から何歳までを無作為だけど何%と割り振るように、40歳までの中でいくつかに分けて、そこから抽出することは考えているのかどうかをお聞かせ願いたいと思います。 まず、アンケートについて何パーセントくらいの集約を考えているのかとは、回答率が何パーセントを目指すということによろしいでしょうか。目標数値や見込みは立てておりませんが、今回提示したアンケートは当初のアンケート案よりも設問の数を減らして、回答率を高くするように考えて作成しているところです。 2点目の高校生についてですが、今回アンケート調査の直接の対象とはしていませんが、こども計画を作成するうえで、子どもからの直接聞き取りがございまして、検討段階ではありますが、市内の高校に声掛けしてワークショップをする中で意見をもらうことを考えています。最後に無作為抽出の1,000人をさらに年代別に区分けするかというところですが、現在抽出依頼をしているものについては、完全に無作為抽出であります。年代別に分けることが可能なのか、分けた方がよいのかという点については、事務局で検討させていただきたいと思います。
委員	この計画は魚沼市の子どもたちが幸せに暮らすための、こどもまんなか社会のための実現の計画だと思っています。それで事務局も先ほど、アンケートで把握したいことについて、対象者の困りごとと言われたのだらうなと思っています。 そうであれば、なおさら小学校5年生と中学2年生に対する質問内容が同じというのは少し違うのかなと感じています。内容をもっと深く聞いていかないと困り感が表面的なものだけになってしまうような気がしますので、この内容については、もう一度検討してほしい気持ちがあります。 そして、子どもの意見を聞くのであれば、回答方法がインターネットでということですが、小学校5年生の子がインターネットで回答するということを思い浮かべますと、保護者が関わってということも非常に考えられます。そうすると親の意見も入ってしまうのではないかなというような心配もあります。「平日（学校に行く日）」とありますが、学校に通えない人も中には多くいて、それが困り感になっている人もいますので、そういう細かいところまでみていかないと難しいのかなというように思いました。

事務局	それで6月に発送というのは非常に無理なような気がして聞いていました。可能であれば何人かのグループに分かれて、これを見直して、最後に一回集まって、このようになりましたがいかがでしょうかと確認した方が進むのではないかと思います。そのために商工会さんや色々な方や保護者の方が入ったのであれば、その年代の方に分けてこれを見直すという時間をとった方が、その内容に成果が出るのではないかと思います。その点はいかがでしょうか。 おっしゃるとおり小学生と中学生で設問が同じというのは少し違うというご意見はわかります。アンケート集計は設問が同じ方が、状況や年代ごとの違いを把握しやすいという目的もある中で、同じになったという経過はあるかと思いますが、Webでの回答については、小学校では同様にWebでのアンケート回答に取り組んでいるように聞いており、IT化の中で一人一台タブレットを使っている状況で慣れており、Webからの回答は可能だと考えています。
教育長	アンケートの内容に関して、私の方から回答させていただきます。子どもの幸せのために作るこども計画の中で、子ども達の抱えている様々な状況や心の中などの様々な課題全てをおさえようとすると膨大な質問項目になってしまいます。市としては、健康増進課や教育委員会、福祉など様々な側面から、多様な世代の市民のための施策を考え、市民の福祉向上や幸せのためにやっているわけですが、先回の子ども・子育て支援事業計画の際にもアンケートを実施していますが、求められる施策内容に対してのアンケートがメインにならざるを得ないと思っています。だから、子ども・子育て支援事業計画の場合ですと、アンケートの項目は保育サービスについてや幼児教育の現状とその保護者の皆さまがどんなことを求めているのかなど、放課後児童クラブ、保健、医療サービス、子どもの遊び場等々、どんな施策をするかに対応した質問をさせていただいております。このこども計画についても、考えていかなければならない内容が、先ほどの話の中に出ましたけども、いくつかの計画をまとめて、こども計画として策定するときに、そこに求められるものを書いてもらうためのアンケートというふうに捉えていただきたいと思いますので、本当に全部できれば良いのですが、そうすると膨大な作業になってしまうので、そこは施策上求められる内容とか、制度とかそういうところに反映するのに結びつく質問項目ということで、県や国が行ってきているような質問を参考にさせてもらっています。そして、こども計画に何が求められているのかというあたりが、最初の質問にもありましたが、皆様も明確でないと思うので、これは県が策定したこども計画等をお配りすれば、どのような内容が求められているのかがわかると思いますので、今度お配りさせていただきたいと思いますし、それに基づいて考えていくためのアンケート項目だということで、部分的にならざるを得ないということをご理解いただければなと思っています。
委員	はい。その点もよくわかりました。ただ、集計しやすいからとかそういうことではなく、小学生の問題は、ここだったらここを絞って質問を作って良いのではないかなとい

	う気はします。例えば、5年生質問の「悩んでいることや不安なことがあるときに誰かに相談しますか」といって、「誰にも相談できない」となれば心配ですね。じゃあ、その理由が何なのか、どうしたらよいのかということまで聞かなければ、あまり解決に繋がらないというか、アンケート結果を見て、ああそうなんだということぐらいしか伝わってこないような気がします。それと Web 回答は子どもたちは慣れていますとおっしゃいますが、では、タブレットを自宅に持って帰ることができるのですか、そうすると、子どもだけで使うことができるということでしょうか。では、それで子どもにやりなさいという前文をつけてするということでしょうか。それができるようであれば、それが良いかもしれませんが、選択方法はもっとあっても良いのかなと思います。郵送でも可として良いのかなと思います。せっかく実施するのであれば、魚沼市もどんどん子どもが減っておりますし、良い方向に向かってほしいという願いがあります。それで、子育て日本一というように常々おっしゃられていますが、お母さん方のほうからは、そうは言うけど中々聞いてくれなくてというような話も多く聞かれます。いざとなると、全然ダメなんだよねと、やっぱり核心をついたところの支援をしていかないと変わっていかないというところもあると思うので、そのあたりは考えていかないとという気はします。 委員 そのような危惧と言いますか、提案も良くわかります。ですので、その辺を今後、アンケートを実施するときには、どういう施策を考えているかということで、それに密着したこどもの実態調査、保護者の実態調査を知りたいというのが、アンケートをするときの主意ですので、それは握って離さず、プラスアルファもあった方が良いという意見もわかりますので、今後、何かアンケートをとるときには、事前に委員さんにこういうアンケート項目を考えていますが、様々な団体の皆さんの周りの声を聴きながら、当日、ご意見を聞かせてくださいという感じで、今後、ぜひ反映してもらいたいと思います。 確かにタブレットを自宅に持って帰って、子どもたちは色々な課題をしていますので、熟知はしておりますが、なかなかそれに馴染めない子どもも一定数いると聞きます。どうしてもインターネットでできない人は、お手紙郵送でも良いのだよというような、猶予を設けた方が良いのかなと思うことと、確かに最後に子どもたちの自由記述欄がありますよね。ここに、委員が危惧したようなことを、私も子どもたちを心配する点もありますので、学校の手を煩わせてはいけないと思いますが、アンケート文を子どもたちにただ配るだけではなくて、小学5年生と中学2年生の担任の先生が、魚沼市について意見要望を自由に書いてねっていうところは、アンケートで自分の気持ちが満たされない分、どんなことでも良いから書いてねと、市役所の人それを拾ってくれることになっているからというような感じで補足説明をして先生方、そのくらいは先生方もこのアンケートの重要性がわかりますので、ただ配って終わりではなくて、そのようなことも可能であればと思います。 それと小学生と中学生が同じ質問項目で良いのかというのは、私は原則良いと思います。例えば4ページに「今の自分が好きですか」とあります。小学5年生と中学2年生では、経験年数も違いますから考える深さは当然違いますね。自己肯定感が高く自分に
--	--

	満足していれば、自信をもって書くだろうし、ちょっと自己肯定感持てていなければ、持てていない方に厳しく書く傾向にあります。ですので、アンケート項目は学年相応に考える深さと経験が違いますので、私は同じで良いと思いますが、私たちがそのアンケートを分析するときに、そういう発達段階を考慮して分析していくことも、私たちの方に求められているのかと思います。
事務局	各委員から貴重なご意見をいただきました。善処できるところは善処していきたいと思ひますし、相談させていただくこともあろうかと思ひます。アンケートを大きく変えるということは難しい点もありますが、可能な限り対応したいと思ひます。よろしくお願ひします。
委員	先ほどから出ていることと関連するのは、文書回答にしても聞き取りにしても、Web回答にしても、その操作とか発言することの得意不得意で差が出ないような工夫ができると良いと思ひます。特に聞き取りされるということで、聞き取りはかなり難しいものだと思ひていて、聞き取ったら実はものすごく元気な子や喋ることが得意な子の意見ばかりで、喋ることが苦手な子や本来聴かなければならない子の声が届かないということにならないような工夫を、普段からそういったお子さんと関わっている方とよく相談されて工夫していただけたら嬉しいなと思ひます。 それともう一つが、5年生も中学2年生も問18「自分が親（保護者）から愛されていると思ひますか」という言葉。愛されているという言葉に5年生あるいは中学2年生が我々の感じているような意味で捉えるのかどうかということが、ちょっとわからない。おそらく、この問の目的から言ったら、「大切にされていますか」くらいで目的は達せられるのではないかなと思ひます。なお、程度の問題というのは、実は問21で「不安なことを誰に相談しますか」というところで現れてくると思ひます。
事務局	ありがとうございます。聞き取り方法については素案の段階ですので、委員のお考えのとおり専門的知識のある方からの助言をいただきながら計画しようと思ひます。
委員	専門家も重要かと思ひますが、普段関わっている方の方が、多くの知見を持たれているかなと私は思ひています。
事務局	わかりました。聞き取りのインタビュアーは面識があった方が、子ども達にとっては喋りやすいと思ひますので、配慮させていただいて検討実施させていただきます。 それから問18については、「大切にされていますか」に訂正する方向で検討したいと思ひます。
委員	今回初めて参加させていただいて、子ども・子育て支援事業計画を読んでいないので、いただいた資料だけ見てきたので、わからない点もたくさんありました。このアンケートは、これが決まればこのまま出るのでしょうかというところと、問16から問19の

	並び方が、すごく重いなと思いました。自分がこのアンケートに回答してくださいと言われて、「住んでる人の介護をしてる」の次に「自分が好きか」と聞かれると、もしそういう立場のお子さんがいたら絶対に暗い気持ちになると思いますし、もう少し並び方というところで、将来自分が住み続けたいとか魚沼市が好きだというところに持っていけるような並び方ができるのかなというふうに感じました。あと若者対象のアンケートで、無作為にということでしたが、この１８歳から３９歳の年代は学生から、独身、子育ての方とすごく幅広いので、無作為でアンケートをしてしまうと聞きたいことがアンケート結果から得られないのではないかと心配に思いました。あと保護者の方の４ページ「子どものためにしていることは」の間の「スマホを持たせているか」という問いが「子どもためにスマホをもたせる」というのはどうなのだろうと、少し思いました。そして、若者の６ページ１８番「魚沼市が好きですか」という質問は子ども向けや保護者向けにもぜひ入れてほしいなと思いました。
事務局	はい。ありがとうございます。まずアンケートの並びのところですが、確かに並びが重いと思いますので、事務局で検討させていただきたいと思います。続いて無作為というところですが、選んでしまうと無作為でなくなってしまうので、変更は難しいです。スマートフォンの質問については、「子どもために持たせている」という意味ではなくて「持たせているかどうか」の確認だと思うので、設問の書き方が悪かったかなと思いますので、検討いたします。
委員	このまますぐ出るのですかという質問に対してはいかがでしょうか。
事務局	まだ、すぐに出るということはないです。訂正させていただきます。
委員	他にも気付いたことが何点かあったので、もしこの後、気付いたことをお伝えする機会を設けていただけるのであればさせていただきたいなと思いました。
事務局	それでは今一度、委員の皆様から確認いただきたいと思います。そして訂正したものを後日郵送等でお送りしたいと思います。
委員	ということは、このアンケートの修正案やできあがったものは、もう一度委員のところに文書で配布されるだけで、再度このような会議を設ける予定はないということでしょうか。
事務局	はい。このあとでスケジュールの話もありますが、想定しているスケジュールがかなり詰まっておりますので、文書配布させていただきたいと考えております。
委員	それであれば、こどもの生活実態調査の方に、「こどもの権利について知っていますか」という項目を入れていただきたいと思います。子どもにはちゃんとした生きる権

	利や育つ権利、守られる権利があると思うのですが、意外に知らないのではないかと思いますので、どれくらい知っているのかなというところに興味があります。
事務局	はい。加えさせていただきたいと思います。
議長	では、このアンケートについては、再度事務局の方でご検討されて、また皆様方に見ていただくということで、また、その後のスケジュールについては後日ということになるということで良いでしょうか。
事務局	はい。
議長	(3) 魚沼市こども計画策定に向けたスケジュール(案)について、事務局お願いします。
事務局	資料4に基づいて説明。なお、アンケートは再検討するほか、その他のスケジュールについても進捗状況で変更となる場合がある旨を説明。 (質疑)
委員	すみません、ではこのアンケートの修正が終わりまして、皆さんに配布するようになりましたら、子どもたちに配布する前文についても全て含めて、こういうふうに出しますという形で届けていただくとありがたいです。
事務局	依頼文についても、あわせて確認いただきたいと思います。
委員	前文があることは丁寧だとは感じますが、答える側の子どもたちのことを考えると、その文書があるだけで、そこで止まってしまう人たちもいるので、前文がなくても回答が始められるような、選択的にできると良いのかなと感じます。回答も先先やってしまいたいお子さんもありえて、それが文章を読むお子さんだと前文があるだけでちょっと引いちゃうということにならないかなという懸念もありまして、だから趣旨を理解してもらうことも大事だとは思いますが、率直に子どもたちが答えてくれることが一番重要だろうと思っています。みなさんいかがでしょうか。
委員	あの前文という言い方が悪いのかもしれませんが、例えば、お願いとして「これは自分で答えてくださいね」「わからないことは答えなくて良いですよ」とか、「これはうちの人には見せないでね」といった、子どもにわかりやすく回答を促すためのもので、前文という言い方が悪かったのですが、子どもがアンケートをするにあたってのお願い、こういうふうにしてくださいというものがあつたほうが丁寧かなと、いきなりこれよりはというふうに思いました。そして、それで詰まってしまうというのであれば、や

委員	はり質問は簡単な方からいけば、スムーズに進むかなと思います。例えば、性別とか、簡単な方からアンケートを組んだ方が、子どもはできるのではないかなという気もしています。 委員の意見、大事なご指摘だと思います。それを文書という形でアンケートと一緒に子どもたちに渡すか、それとも。学校現場には色々なアンケートが来ます。例えば、人権擁護委員がいじめSOSということで、いじめられたり、いじめている場面を見て気づいたこと、困っていること、自分の気持ちを率直に出してね、誰も先生も見ないし、うちの人も見ないし、担当の係の人しか見ないからねということを、文書をつけますが、人権擁護委員の方のお話をお聞きすると普段子どもたちと信頼関係のある先生から、文書を配布するときに、学級担任の先生から言葉を沿えてもらうということが学校現場ではやられていて、それが良かったと言っています。なので、文書にしたら良いのか、学級担任の方から一言触れて、心の中にいれてもらって、回答してくださいね、市役所の人も待っていますよというくらいの方が良いのか。学校現場はどうでしょうね。
議長	学校には本当に様々なアンケートが来まして、非常に膨大で、率直に申し上げるとどの機関も子どもたちの意見を聞く場合は学校に来れば、話は聞けるし、学校からお便りを配れば子どもたちに行き渡るということで、様々な機関から学校を通じてきますので、特に学年の低い学級担任にすれば、お便りを配るだけで一時間終わってしまうというような現状があります。なので、私はこの Web での質問というのを見たときに、おそらく学校でやるのだろうと想像していたのですが、そこは後日どうなるのか、はっきり教えていただければよいのかなと思います。実際のところ時間としては、学校現場大変厳しい状況にあると、できなくはありません、しかし、時間は非常に様々な取り組みがありますので、非常に難しいなあとは思いますが、ただ魚沼市の子ども・子育て会議の一環としてしっかり聴いてもらいたいということであれば、しっかり時間をとって話を聴くということはやぶさかではございません。 その他、ございませんか。 では、議事については以上でよろしいでしょうか。 いくつか事務局に持ち帰りというものがあるかと思いますが、それについては後日、示していただくということで、今回のスケジュールについても若干アンケートの矢印の長さが変わるのかなということがあります、よろしくお願ひしたいと思います。 8 その他 何かこの場でお話しておくことはありますでしょうか。また一言お言葉を残しておきたいという方がおりましたら、いかがでしょうか。

事務局	予定した時刻より少し早いですが、議事について終了したいと思います。では、事務局にお返しします。ありがとうございました。 会長、スムーズな議事進行大変ありがとうございました。それでは、次第は終了とさせていただきます。次回の開催については、7月中を予定しておりますが、日程調整後にご案内させていただきたいと思います。では、最後になりますが、事務局長から閉会のあいさつをお願いします。
事務局長	皆さん貴重なお時間大変ありがとうございます。様々なご意見もいただきまして、本当にありがとうございます。今年度の子ども・子育て会議につきましては、こども計画の策定が大きなテーマとなっております。これからも色々なご意見を頂戴しながら良い計画を作っていきたいと考えておりますので、ご協力をいただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。